



## 新年のごあいさつ

会長

久慈士郎



野田村の皆さま、會員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えることと思います。昨年は野田村・會員の皆さまに力強いご支援・ご協力をいただき心からお礼申し上げます。

コロナ感染症も終息の兆しが見えた矢先、東京都は9月にインフルエンザ「流行注意報」を発表しました。季節外れの流行にはコロナの流行や異常気象も関係しているようです。現在、アジアの亜熱帯地域で多くの感染者が増加傾向とのこと。雨期は人々が屋内にとどまる時間が長く、飛沫感染が起こりやすい環境にあるため、昨年の日本の夏は例年より気温が高く、雨も多い異常気象も

一因かと言われているそうです。また、国際交通が復活し、インフルエンザへの免疫が低下していることが大きな要因といわれています。

江戸の時代には流行風「お七風」など、その当時話題の女性の名前が付けられたそうです。江戸時代の第4代横綱「谷風梶之助(仙台出身)」は「土俵でわしを倒すことは出来ない、倒れているところをみなければ風邪を引いた時に来い」と負け知らずの横綱はうそぶいたそうです。ところが本当に流感にかかり現役のままこの世を去ったとか。無敵の大横綱を倒した病を江戸では「タニカゼ」と呼んでいたそうです。「コロナーインフルエンザ」

ザ!俺は大丈夫」という過信は一番危険です。心して対策を講じましょう。

さて、野田はまなす会「総会・交流会」も昨年6月に4年ぶりに開催することができました。そして、日帰りレクリエーションもバーベキュー大会として多くの参加者のもと、楽しい1日を過ごすことができました。これも一重に皆さま方のご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。令和6年度「野田はまなす会総会・交流会」は6月23日に東天紅上野店で開催します。野田村出身の人や、ゆかりのある人、ぜひ多くの皆さま方のご参加を心より、お待ちしております。

結びに、不穏な世界情勢、自然災害などの不安材料ばかりが目立つ昨今ではありますが、野田村の皆さま・會員の皆さま、どうぞお体をご自愛願います。本年こそ幸多き年でありますこと、更に野田村の発展をご祈念申し上げます。



# 新年のごあいさつ



野田村長  
小田 祐士

明けましておめでとうございます。貴会の皆さまにおかれましては、日ごろからふるさとである野田村のため、心温まるご支援とご協力を賜り、心から厚く感謝申し上げます。

本年の十府ヶ浦から見る初日の出は、厚い雲に覆われており、例年より日の出に時間がかかりましたが、温かみのある柔らかな日が差し込みました。能登半島での地震など、暗い話題で始まった本年ではありましたが、会員の皆さまと村にとって、この初日の出のように、希望にあふれる1年となりますことをご祈念申し上げます。

## 会員の声

### 「はまなす会」に入会して



保角 卓哉  
根井出身・野田中昭和45年卒

はまなす会に入会して、2年目になります。丁度コロナ禍でした。会の催しなど、制限があったと思いますが、昨年久慈さんより連絡があり、東京都町田市小野路球場にて高円宮賜杯第42回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメントがあるので、応援に参加させていただきました。その場で、会の皆さまと初めてお会いし、野田村の昔話をして、懐かしく思いました。その年、千葉県の21世紀の森と広場にて、日帰りレクリエーションにも参加させてもらいました。

復が期待された年でした。本村でも4年ぶりに3日間での開催となりました。

野田まつりや、19年ぶりに開催された港まつり、秋にはまんぷくマルシェなど、各種イベントを開催することができ、村民の活気と笑顔を感じることもできたところがございます。その一方で、物価高騰や地球規模の気候変動による農林漁業への影響など、村民の生活へ影響が及ぶ様々な課題が見られた1年でもありました。

本年は、来たる人口減少社会の対応を加速する年になります。将来にわたり、村民の笑顔と活力をつなげていくためには、村民全員が、知恵を出し合い、村全体で一致団結して、目の前の課題、将

意義な時間でした。

今年5月には、車で両親の墓参りに行って来ました。仙台から三陸沿岸道路を利用しました。途中で車を止め、休んだり景色の良い所をゆっくりと眺めたかったのですが、ほとんど止める所がなかったのがちよつと残念かなと感じました。

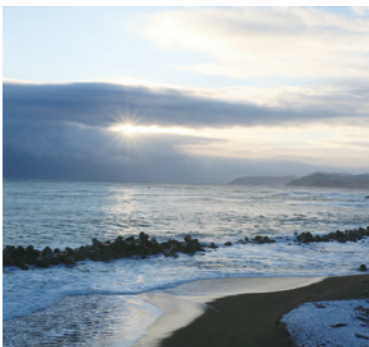
十府ヶ浦海岸に行き、昔を思い出しながら砂浜を歩いてみました。本当に大変な事が起きたんだなど、改めて思いました。その後、久慈に行き宿を取り、近くのスナックへ行き、つまみで出た山菜がとてもおいしく3回も追加してもらいました。また、ママさんとの昔話で盛り上がり大分飲み過ぎました。

帰りには野田により、道の駅や海産物屋で海産物や山菜をたくさん買って宅配便にて送ってもらいました。同じ物を田舎で食べたのと神奈川で食べたのと味が違うように思えました。

来の課題へ取り組む必要があります。

また、昨年着手しました小学校移転工事のほか、新たな地方創生の場としての活用が期待される「交流物流産等複合施設」の整備事業も加速してまいります。これからは、さまざまな施策を点から線へ、そして面へと展開し、これまで生まれきた多様な交流・つながりを大切にしながら、地域づくりを進めていきたいと考えております。

結びに、健やかで穏やかに過ごしていただきませう、衷心よりお祈り申し上げますとともに、幸多き良い年となりますよう祈念し、あいさついたします。



十府ヶ浦から見た初日の出

## 会員の声

### 「はまなす会」と未来



大沢 辰夫  
前田小路出身・野田中昭和43年卒

私、大沢辰夫は15歳から野田村を出て関東で55年を過ごしています。

しかし、それでも野田村は私の故郷であり、必ず年に1、2度は帰省しています。どんなに離れていても、やはり私の絶対的第一の故郷なのです。そんなある日、愛知県で息子の結婚式の時、その近くに住んでいた、日當郁夫さんにふと声をかけてみました。彼は二つ返事で来てくれて、息子の二次会の余興をしてくれました。そして、お酒を飲みながら昔話に花を咲かせました。そこで、

はまなす会というものを知りました。野田村出身の人たちが集まる会があること、同級生が集まっているというのを聞き、とても楽しそうだと思っ

## 「令和5年度日帰りレクリエーション」幹事長坂本 悟

(旧姓・桜庭)

野田はまなす会恒例の日帰りレクリエーションは、2023年度は埼玉県担当で行われました。前回は大好評をいただいた、松戸の「21世紀の森・木もれ陽の森・パーベキュー場」にて、10月8日に開催いたしました。

前年度担当の千葉の皆さまの応援で予約を取り、食材の準備や食材の調達などご協力をいただき、BBQ開催にこぎつけることができました。

良い天気恵まれ、集合場所の八柱駅に、参加者の皆さまが早々に集合。買い出し組、会場担当組に分かれ、10時開始に向けて、バスで会場に向かっていたいただきました。現地到着、受付をして、食材、調理用品、レンタル品など、キャリアで手分けして、皆さんに運んでいた

だき、全員で準備を始めました。

一番大変なのは、なんといつても炭起こしです。火が付いても、お肉を焼くまでは、結構時間がかかります。その間に飲み物を、氷で冷やすとか、野菜の準備とか、テーブルの準備とか大忙しでした。

開始時間の10時頃、BBQ大会ははじめの久慈会長挨拶、参加者の皆さんの自己紹介、今日の流れ、終了時間などの確認を行いました。

今回のテーマ「食べて、飲んで、ふるさとを語るBBQ大会」の趣旨で、乾杯は桜庭顧問にお願いしました。まだまだ暑くビールがおいしかったです。今回は皆さん遠路はるばる来てくださって、本当にありがとうございました。それぞれ体調には、十分気を付けていただき、ぜひまた、来年のレクリエーションで元気にお会いしましょう。



食事をする大沢さん

たのです。みんなバラバラになったけれど、また、はまなす会を通じて交流ができることを知り、行ってみたいと思いました。そして、副会長で同級生でもある、米田忠男さんからも声をかけてもらい、今は、はまなす会に5年くらい参加しています。千葉でBBQをしたり、東京で会食をしたりして、みんなの今の近況を聞き、お酒が入れば、とても懐かしい話をして、時間がいくらあっても足りません。会に入る前は、野田村出身の人と会うことが少なかったのですが、今では40、50人の人々と交流しています。はまなす会に行くようになってから、今まで以上に野田村が好きになりました。



大沢辰夫さん(右)と息子の雄一さん(左)

私は、もつとこの会が大きくなって欲しいと思っています。野田村で育っていないくても、みんなの子どもや孫と一緒に連れてきてほしいと願っています。

そして、はまなす会では彼らたちに、野田村のことを知ってもらい、興味を持ってもらえれば、もつと私たちの故郷、野田村が輝き、活気を取り戻せるような気がします。

私の個人的なわがままでいうのなら、みんなの子どもたちや孫を見てみたいと言ったのが本音です。はまなす会の輪が広がることを願っています。



## 岩手県人会

### 秋季献血活動

献血奉仕活動が、11月5日に池袋駅東口中州で実施されました。献血車両2台と仮設テントを拠点に「献血のご協力をお願い」のプレートを掲げ道行く人たちに呼びかけを行いました。



みんなで記念撮影

今回の奉仕協力団体は、中部・胆江地区と宮古・釜石・遠野地区ふるさと会の協力のもと、30人の奉仕者で行いました。献血協力者は59人あり、多くの人たちから献血の協力があり、日赤スタッフより感謝の言葉をいただいた次第です。

岩手県のゆるキャラ「そばっち」の着ぐるみも好評で、お子さま連れや外国人の皆さんも笑顔で記念撮影をしていました。野田はまなす会から久慈会長が参加しました。

野田はまなす会

### 野田はまなす会 第3回役員会開催

第3回役員会を1月14日に、目利きの銀次虎ノ門店で開催しました。出席者は桜庭顧問、久慈会長のほか10人でした。令和6年度の総会・ふるさと交流会を6月23日に、台東区の東天紅上野本店で開催するなどの話がありました。

### 新規会員のご紹介



内野澤 安紀 (下安家出身)

本年度より野田はまなす会に加入いたしました。内野澤安紀と申します。

桜庭顧問、久慈会長をはじめとした皆さまにおかれましては、どうぞよろしくお願いたします。自己紹介をいたします。

出身は下安家地区で、野田小学校と野田中学校に通っていました。中学

校のときはほぼ部活動の記憶がなく、毎日のように野球に明け暮れていたなと思います。当時の私にとっては辛い練習ばかりでしたが、今となっては私

の人格や忍耐力といった点は野球を通じて体得したものと認識しています。高校受験を控えて、久慈地区の高校に進学することも検討しましたが、

大学受験も考慮して盛岡市みたけの盛岡中央高校(旧校名・龍澤高校)に入

学しました。スポーツ

以外の目的で久慈地区を出るという選択をした生徒は当時ほ

ぼいませんでしたので、私の選択を快く受け入れてくれた両親には心から感謝しています。

その後、東京大学文化一類に入学、のち同大学法学部を卒業後、現在は東京都内

で会社員として勤務しています。大学では政治や法律

などを中心に幅広く学びました。何かに追われることなく自分の学びたいことを学べるという素晴らしい環境と設備があり、また通っている学生

や先生たちもレベルが高く、かけがえのない4年間になりました。話は逸れますが、大学の友達などに私の出身

地(野田村)の話をする

と皆面白がって聞いてくれましたので、東京大学

における野田村の知名度は、私が入学する前より相当上がったと思います。

### 【あしがき】

(M・Y)

- ◆激動の令和5年兎年～希望の6年辰年へ。
- ◆今年こそはと期待を膨らませ船出したい。
- ◆人も環境も変化する中で懸命に生きたい。
- ◆身近な友の一声がうれしい。
- ◆元気、どうしている、何気ない声掛け。
- ◆友とは、なんとありがたい存在か。
- ◆声を聴くだけで、安心感が生まれる。
- ◆今年も顔が全員揃っていますように。
- ◆年々歳々花相似たり、今年も健康で。
- ◆夜道の灯は、相手も自分の前も明るい。
- ◆相手の元気が、自分の元気になる。
- ◆寄り添いながら安心、安全な日々を。
- ◆皆さん今年も一声よろしくお願いたします。

### 友好団体との交流

令和5年度友好団体の交流会参加は6団体。

日にち	友好団体名	出席者
6月24日	久慈高校同窓会東京支部	桜庭顧問、久慈会長
7月2日	久慈地区高校東京同窓会	桜庭顧問、久慈会長、坂本幹事長、戎谷幹事
10月1日	久慈ふるさと会	久慈会長
10月29日	ふるさと普代会	久慈会長
11月18日	東京大野つばさ会	桜庭顧問
11月18日	在京軽米会	久慈会長